講義名	ＮＰＯ論				
科目区分	学部フリーゾーン				
担当教員	森脇　丈子				
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 ４時限			授業形態	
	2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツマネジメントコース／2019年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース／2019年度 人間社会学部 人間健康学科／2019年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース／2019年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース／2019年度 人間社会学部 観光学科／				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

特定非営利活動促進法が成立（1998年）して20年以上が経過し、非営利組織の存在は市民生活の多くの分野に浸透してきています。また、行政や企業との協働といった形もあちこちで見られるようになってきています。
非営利の組織は、学校や福祉、街づくりといった分野にとどまらず、環境や国際協力、文化・芸術の分野にも存在しています。これらの組織は民間企業や行政では取り組めない領域をカバーし、市民の多種多様なニーズに応えるサービスを創りだしてきており、注目されています。　とりわけ、急速な高齢化と人口減少が進む日本社会では、社会における相互の共同がいままで以上に求められているともいえます。
この授業では、国内的もしくは国際的に活躍するNPOの具体的な活動をとりあげながら、NPOの役割と実際の成果、現状での課題と今後の発展可能性などについて、考えていきます。 また、社会的企業についても紹介していきます。
また、毎回の講義の中で受講生と議論をおこないます。

到達目標

１．非営利組織にはさまざまな形があることを理解します。
２．非営利組織と企業との違いについて理解します。
３．非営利組織の運営（活動内容、資金、規模など）について理解します。
４．非営利組織の今後の発展可能性および課題について考えます。

提出課題

・授業の後半に課題を出します。課題は、その日の授業内容に関連するものです。授業の内容のまとめや自分の考えを記入して提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

「課題」に関するコメントを授業のなかでおこないます。

評価の基準

☆ 「小テスト」
・回数…２回
・点数…２回×35点＝70点

☆ 「課題」の提出
・回数…毎回
・点数…15回分×2点＝30点。

☆ 「小テスト」と「課題」の合計点で、評価をします。合計60点以上が、合格です。

履修にあたっての注意・助言他

☆授業中に、学生に質問を出して発言を求めます。

☆新聞・ニュース・雑誌等で社会の出来事や企業活動などに関する情報を日々収集しておいてください。

☆第１回目の授業ガイダンスに必ず出席し、授業中の約束事をしっかりと理解したうえで、受講してください。

☆教室での通常授業では、私語・スマホの利用、教室への勝手な出入りを禁止します。

教科書

.「使用しない」.

プリント資料及び参考文献

☆教室で行う通常の授業では、出席者に、プリント，新聞記事を適宜配布します。
☆遠隔授業では、Ryuka Portalの「講義連絡」の機能を使って、プリントを提供します。

☆〈参考文献〉
・小暮真久『20代からはじめる社会貢献』、PHP新書、2011年
・渡辺由美子『子どもの貧困』2018年、水曜社

授業計画

1　授業の内容紹介と授業の進め方について、　NPOとは
2　給食活動のNPO：インド
3　TFT
4　アフリカの鉱物資源と貧困
5　児童労働
6　国境なき医師団
7　マラソンを通しての支援活動、地雷撤去
8　フェアトレード
9　フードバンク
10　社会的企業
11　公益財団法人
12　「効果的な利他主義」とは何か
13　日本のNPOの活動状況：マネジメント、資金・寄付・運営、企業や行政との「協働」
14　投資家の新しい動き：ESG
15　非営利組織の課題と今後の発展の可能性、　まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・毎回の講義終了時に，次回の範囲とそれに関連する予習項目を提示します。新聞やニュースなどを使って情報収集に努め、次週の授業での質問により多く答えられるよう準備してください（作業時間：2時間程度）

・その日の授業で扱った内容を基にして、次週の授業開始時に復習問題を提示します。授業で使用したプリントを用いて、基礎的な内容の復習をしてください。また、配布した新聞記事などを利用して、具体的事例で授業内容をより深く理解できるように努めてください（作業時間：２時間程度）

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

インターネットを使った遠隔授業方式での発言、もしくは、チャット機能を使って意見を述べてもらいます。

実務経験の有無及び活用

備考

☆ 第1回目の授業ガイダンスをしっかりと聞いて、授業の進め方・評価方法を理解してください。

☆通常の教室での授業では、基本的にスマホは利用しません。教員の指示があったときのみ、スマホを使用してください。教室への勝手な出入りは禁止します。 授業態度の悪い人には退室を求めることがあります。